本高同窓会報

発行
本庄高校同窓会
会長　岡　祐孝
事務所　本庄市銀座3-5-8
岡病院内

昭和62年度総会開かる

本高創立65周年記念講演会開催

本高同窓会総会

本庄高校同窓会昭和六十二年度通常総会は去る六月十三日(土)午後二時より埼玉グランドホテルにて開催された。本年度は堀越龍夫、高木恂、二恩師にご出席頂き、和やかな雰囲気の中にも真剣な討議が行なわれた。総会終了後テイーパーティには本高卒の萩原定夫氏のクラリネット独奏、浅見多佳子氏のソプラノ独唱及び本高教諭の中原尚子氏のピアノ独奏という記念演奏会が錦上花を添えた。

総会は立川副会長の会長メッセージ代読ではじまり、江原会計議長となり

一、昭和六十一年度事業報告並びに収支決算報告

二、監査報告

三、昭和六十二年度事業計画並びに収支予算案承認

四、新町支部長紹介

以上の議事が審議され、いずれも原案どおり全会一致で承認された。

そのあと来賓として母校校長高山晃先生及び恩師を代表して堀越龍夫先生よりご祝辞を頂き盛会裡に終了した。

本高創立六十五周年記念講演会開催

菊薫る十一月四日(水)母校体育館において、在校生約一三〇〇名、母校教職員、PTA会員並びに同窓会員約一五〇名を前にして、はるばる神戸より馳け付けて下さった本高二回卒、東大卒、運輸官僚を経て現在加藤汽船㈱社長の小塙直氏の記念講演会が開催された。生憎肌寒い秋雨の降る日ではあったが敗戦をはさんでの在学当時のほろ苦い体験談や前後十年、四〇ヶ国を歴訪した豊富な外国生活にまつわる奇談珍談に外の寒さも忘れる一時間であった。

講演終了後、席を埼玉グランドホテルに移し先生を囲んで皆当時の紅顔の美少年にもどって時の経つのも忘れて昔話しに花を咲かせた。

— 母校生徒会より花束を受ける小塙氏 —

ごあいさつ

同窓会長　岡　祐孝

年の瀬を迎え、同窓生各位にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素、同窓会活動に深いご理解と絶大なご協力を賜り誠に有難く厚く御礼申し上げます。

本年拾月参拾日に本庄市児玉郡教職員支部が新たに結成され、地域別弐拾九支部、事業別四支部に組織が大きく拡大強化されました。会の活性化と相俟って運営面でも関係各位のご盡力によって諸事が極めてスムーズに推移致しております。

母校県立本庄高校は本年創立満六拾五周年記念を迎えました。この記念すべき節目の年を祝し、拾壱月四日に同窓会OBの小塙直氏(本高弐回卒)をお招きし記念講演会を開催致しました。生徒諸君を始め、列席者多数に多大の感銘を与え、且つ後輩の指導育成に些か貢献し得たと信じ幸甚に存じて居ります。在校生諸君！先輩の青春時代の思い出話や体験談の中から何か「心の糧」になるものを汲み取って下さい。高校生活参年間の貴君の研鑽如何んが、諸君の将来に大きく影響し、運命を左右する極めて重要な分岐点になることに思いを馳せてください。

尚、同窓生の皆様には年会費、終身会費等のご納入を頂き衷心より感謝申し上げます。終りに皆様のご健勝を祈念しご挨拶といたします。

昭和62年度 事業計画

62年4月　定例役員会
5月　定例役員会
6月　同窓会会報No.7発行
定例役員会
通常総会開催
7月　定例役員会
高校野球応援
8月　定例役員会
9月　定例役員会
中高連絡会
10月　定例役員会
PTA役員との懇談会
11月　65周年記念講演会
定例役員会
会員レクリエーション
12月　定例役員会
同窓会会報No.8発行
63年1月　定例役員会
2月　定例役員会
新年会
支部長会議
3月　定例役員会
新会員入会式

創立65周年に想うこと

校長　高山　晃（旧中20回卒）

今年は本校創立65周年に当たる。大正11年4月、当時の地元の方々の教育に寄せる熱望によって、県立本庄中学校として現在地に開校した。県下六中の一つで、県北の雄として期待に応える輝かしい成績をおさめた。進路先は東京大学（旧制高校等を経て）を始め、一流国公私立大学等に進学し、又、地元にあって指導的役割を果たすなど幾多のすぐれた人材を世に送った。

戦後、学校制度改革により、県立本庄高等学校となり、本庄女子高等学校の合併、定時制課程、別科（現在は廃止）の設置など男女共学になって校風も新しくなった。しかし、創立以来の質実剛健の気風は底流として存在していると信じている。なお、今日までに巣立った卒業生は二万二千余人の多きに達している。

さて、同窓会員皆様の本校に対する期待は近年特に大きいと感じている。順調に推移している時は成長を見守っているように感じられるが、や、期待に応えられない状況が見られると激励の声が掛けられてくる。当然であり、ありがたいことである。それだけに学校として生徒に良い刺激と受け止め平素の指導に力を注いでいる。進路指導の充実、模試・補習など計画的に開始し、これが大きなきっかけとなり必ずや成果があがると考えている。理屈抜きに競争に勝たねば進学は達成できない。生徒には、目標・計画・努力・フィードバック、やるしかないと励ましている。今後とも一層のご支援をお願いしたい。終りに同窓会の益々の発展を祈念する。

懐旧

相川徳平（旧中一回卒業）

現本庄高校が、県立本庄中学校として発足したのは今から六十五年前、大正十一年。当時の中学は五年制で、第一回生として入学した私は、そこで五ヶ年間を過ごした。

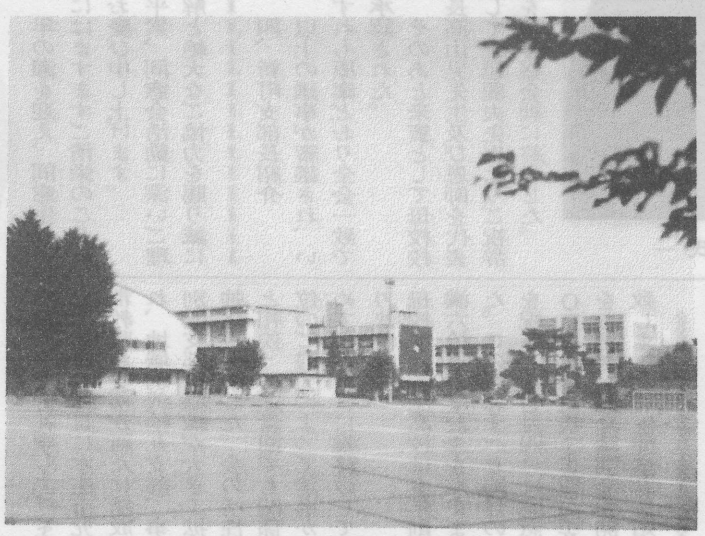
顧れば過去は茫々として遥かに遠く、かすかに霞んではいるが、それでも幾つかは鮮烈に印象に残っていることもある。

老朽化した農村の小学校生活から、ペンキの香も強い新築早々の校舎に移り、ま新しい金ボタンの制服生活に変った時の、一種の感激。又、新しい教科書―装丁、文字、文章、活字のにおいなど、誠に新鮮。これを手にした時の興奮、正にハイレベルの世界に入ったような感に打たれたものだった。オーバーな表現のようだが、学問のかおり、文化のにおいとでもいうものさえ感じ、心のたかぶりを覚えたのだ。幼稚と言えば幼稚かも知れないが、それ程当時の小学校時代と中学校の新しい環境とに甚だしい隔絶があったと言えるだろう。

――そんなことを、今懐しく追想している。

時移り人変り、時代感覚も変化した現在、今の若者にこんな感懐が理解できるだろうか。愚にもつかない老人の感傷と一笑に付されるのでは、と危惧するのみである。

一体、今の若者は何に感激し、何に興奮し何に情熱を傾注するのであろうか。私も三男一女を育て、それぞれ大学を卒業させたが、移り行く時の流れの中の人間の心の推移は、誠に理解しがたいものがある。―請われて一筆。



最近の母校全景

つれづれに想うこと

小暮とよ（女子昭和二年卒）

同窓会の皆様、お久しゅうございます。此度新聞御発行とのこと、お目出度うございます。

同窓会より何か一筆をとの事ですが至って筆不精にて失礼がありましたら御許し下さい。月日のたつのは早いもの昭和二年卒ですから六十年の歳月がたってしまいました。その間、戦争、敗戦と目まぐるしい激動の時代を過ごして参りました。昭和十年中国へ渡り色々体験し、終戦少し前、次男を本中へ入れる為一時帰国、そのまま終戦…戦後は食べる物も満足にない暗い日々でしたが、子供達は皆本高にお世話になる事が出来、楽しい学生生活を過せた様でございます。唯今は孫がお世話になっております。ですから六十年間ずっとお世話になり通し、どうも有難うございました、今後共宜しくお願いいたします。

増沢様が初代会長になられ同窓会を守り育てられ至らぬながら私も富沢会長の代まで十年程副会長をつとめさせて戴きました。想いおこせば私にとりましては、あの頃が最も充実していた日々でございました。

只今はお若い皆様方が御活躍下さいまして会もますます発展され、本当に心より嬉しく感謝いたしております。

新聞発行の日を楽しみに致しております。終りに、会の皆様の御多幸をお祈りして失礼させていただきます。

ご注意

先般「本庄高校職業別同窓名簿」の発刊案内や同窓会事務局名を使った電話による勧誘などあるようですが本高同窓会とは一切関係ありません。ご注意下さい。

本高の内的な――世界のこと――

船戸鏡聖（あきまさ）（本高六回卒）

昭和五十七年に本庄高校は創立六十周年を迎えた。その記念誌『母校を語る』のために、私の同期生である新制高校第六回卒業の方たち十七名に集まっていただいて、座談会を開いた。そのときに話し合われて速記録にはとどめられたが、現在の教育制度上、没になった話題がある。

それは、神明宮であり、三界万霊塔であり、一本松の霊の石塔であり、二宮尊徳の銅像等についてのものであった。いずれも、本校に在校した人々の精神の世界に関係のあるものばかりであるのが興味深かった。

しかも、いずれも現存しているのである。特に、後の三者は、本校のうちに。

三界万霊塔は、現在は、一番北の校舎「ホーム・ルーム棟」の北東の角の庭に建っている。私たちが在学した頃には、もとの博物教室の西の庭にあって、私が二年生のときには、博物教室がホーム・ルームにあてられていたから、万霊塔を目にする機会は多かった。真四角の石柱で、隣室の博物準備室の、動物の標本やアルコール漬けの瓶を見ると、ああ、あの動物たち、あるいは授業の実験に供された動物たちの霊を慰さめるために建てられたものか、と誰に説明されなくとも納得できて、霊の世界をかいま見る思いで、おごそかな気持になったものだった。昭和十一年六月建立。

それが、今では、なんとも無造作に、ただ物理的に置かれている感じで、不注意な生徒は、腰掛とまちがえてしまいかねない状態である。

一本松の霊の石塔は、薄い滴形の石に、「一本松之霊」とだけ彫ってある。なんでも、大正十一年四月の開校前に、本校の敷地の北東に、樹齢何百年という松の大木があって、土地の人々に親しまれていたという。中学校開校に際して切らねばならなくなって、土地の人々と学校関係者とで、切ったあとで、一本松の霊をとむらった、と私は聞いたことがある。大自然のすべてのものに、生命を、霊を観じて、人間と同じように供養する当時の人々の奥床しい心のありように打たれたものである。

現在、その石塔は、合宿所の東側の、テニス・コートに行く路に建っていて、ひっそりとした松の息づかいを今に伝えているかのようだ。

二宮尊徳の銅像は、昭和九年十月十四日に建設され、かつての木像の本館の玄関前に建っていた。私たちも在学中に親しんだものであった。

移されたのは、恐らく、本館が解体された昭和四十六年前後であろう。

現在は、南の旧正門の脇に建っていて、特に四月十日頃の桜吹雪の舞う中で、少年金次郎がたきぎを背負って読書に耽けるさまは、一幅の絵を見るかのようである。

さて、本校のうちに現在はない神明宮は、一体どこにあるのか。

先輩のK氏に教えていただいたのだが、実に、本庄総鎮守の金鑽神社の、鳥居をくぐって突き当たりの大門、その裏に、ほこりまみれで、いわば放置されているのだ。

神明宮は、昭和八年十月に竣工。その折の写真は『母校を語る』に編集委員として載せておいたが、木立ちの中の神明鳥居の奥に鎮座ましまし、向かって左には、恐らく宮城前の大楠公(楠木正成のこと)像を模したものと思われる銅像さえ建っている、荘厳なたたずまいである。

同じく、『埼玉県立本庄高等学校五十年史』にも載せたが、「昭和九年十一月十四日勅使として徳大寺侍従御差遣神明宮礼拝」という裏書きのある写真が、本校に保存されている。礼拝している侍従ともう一かたとの彼方には、寄宿舎らしい建物が見える。

そして、神明宮自体はというと、鳥居が神明鳥居ならば、社はまさしく神明造りで、堅魚木（かつおぎ）の並んだ両脇に内そぎの千木のついた棟である。屋根は銅板葺きと思われる。

ところが、前述の座談会では、その銅板が現在はすっかりはがされていること、社殿の中に入って隠れんぼをしたことなどが話された。私自身も子供のときから、金鑽神社で何度も見ていた。

座談会では、さらに次のように話がはずんだ。

われわれ第六回卒の者が本高に入学したときには、既に神明宮は校内から姿を消していた。が、もともとは本庄中学校の中心の守り神であった筈だ。その神明宮をほったらかしているから本高はうだつが上がらないのだ。創立六十周年を期してなんとか復活させようではないか、と。

それはいまだに実現していないが、本校卒業の諸兄姉、就中旧制本庄中学校卒業の諸兄よ、一体この問題をいかがなされるや？

本庄・児玉郡市小中学校教職員支部結成される

去る十月三十日、本庄市内ホテルにて、岡同窓会長を始め教育事務所長、教育長の諸氏を来賓にお迎えして小中学校教職員支部が結成された。会員二三九名、会長に山中清（旧中22卒本庄東中校長）副会長に卜部義典（高1卒本庄南小校長）の両氏を選出、会員親睦、交流が期待されます。

スローガン

1. 名誉ある歴史と伝統に輝く母校を愛し母校の発展に寄与しよう。
1. 本高同窓会の旗の下に結集し、地域に香り高い文化の花を咲かせよう。
1. 人間関係を大切にし、会員相互間に親睦の輪を拡げよう。
1. 組織を整備強化し、機能的な連絡網を拡充して、同窓会の活性化を図ろう。
1. 建学の精神を尊重し、後輩の指導育成に努めよう。

新年懇親会

とき　2月6日(土)　午後
ところ　本庄市・五州園
支部長会議　午後3時
懇親会　午後5時
会費　3,000円
申込　1月20日迄同窓会事務所に申込んで下さい。

昭和63年度総会

とき　63年6月11日(土)　午後3時
ところ　本庄市埼玉グランドホテル
総会、記念音楽会、親睦会
親睦会（希望者）
会費　3,000円

終身会費納入についてお願い

親愛なる同窓生の皆様、平素本高同窓会の為に多大のご協力を賜り誠に有難うございます。私達は同窓会の本旨に則り母校への寄与貢献と会員相互の親睦向上を念願し努力致しております。同窓会活動を円滑に推進する上で一番大事なことは御案内の通り財源の確保であります。幾多の事業を遂行しようと思うと、相当の基礎財源を必要とします。本高同窓会では年会費、金壱千円也と入会金、金弐千円也、それに終身会費金壱万円也と、特別寄付金、其の他で財源を賄っております。終身会費納入制度は昭和五拾年持田前会長の時代に総会の議決承認を得て制定されました。現在約千余名の納入者がおります。終身会費納入者には、金壱万円也のご拠出でその後の年会費は終身不要です。尚、同窓会本部の終身会費納入者ご芳名簿にその名を記載して、永久にそのご高志を称えることにしております。その上、同窓会報の発送や、総会其の他のご連絡を優先的に致します。何卒、同窓会発展のため倍旧のご支援ご協力をお願い申し上げる次第です。

終身会費ご納入の際には左記口座にご入金下さい。

郵便局振込口座番号東京三―一八七〇二〇、又は埼玉銀行普通預金口座番号本庄一八九―一〇七七三

本高同窓会役員一同

終身会費納入者芳名

(62・3・21～62・10・31)

卒業年度別(敬称略)

中19　木村雅彦・長沼　肇
中20　真尾辰夫・卜部太郎
中24　相馬照明
女11　工藤君江
高2　浅見靖夫
高3　橋爪利夫・高柳慶一・大野文雄・倉林　毅・塩原正美
高4　清水　奨・松山よし子
高5　関口祐一・野村清子
高6　柴田　実・小菅　卓・矢代和正・野口恭一・野口礼子・城田博子
高7　宮崎忠男・諏訪重明
高8　桜井穂積・高橋幸子・小林美代子
高9　栗原傳一郎・鬼沢善男
高10　小林禧夫
高11　太田和子
高12　茂木孝彦・内田睦夫・小林美好・金子康江
高13　佐々木義弘・松本節子
高14　内田作治・清水俊彦・森　範昭・井田君子・今仁厚子
高15　金子一男
高16　杉山悦子・大橋正子
高17　萩原敏夫・上野正文・内田八千代・鈴木弘子・新井克恵
高18　落合誠一・高橋敏夫・富沢峰雄・渋谷絹恵・福田利子
高20　小林和雄・中野修一
高21　松村　修・金子　勝・田端義雄・坂本花子・内山美喜子
高22　小林正嗣・岡芹正美・清水和子・大塚育子
高23　長井公男・神戸敏寿・吉川千鶴子
高24　日和田直志・森　幹男・永山静夫・星野　一・阪上恵保巳・長谷川佐知子・小池公子・斎藤静子
高25　飯塚能成・森　米子
高26　井上正敏・野口卓也・堀池　実・塚越　肇・田端基人
高27　杉島秀幸・飯田　潔・松永正恵・大澤重秋
高28　高橋由美・渡辺幸子
高29　茂木研次・山本　勲・阿部祐司・青木三亀男・安斉宗祐・西　靖彦・小島　悟・吉田達夫
高30　寺尾好夫・岡田正則・根岸由幸・中山佳則
高31　森　敏昭・渡辺勝徳
高33　上原正和
高34　神戸卓也
高38　戸谷収二・山本公紀・持田文子・朝倉通子
高39　宗像幸夫
定7　渡辺芳二
定9　河田英子
定21　千田　昇
定28　原島千代子
特別寄付　高橋美典

年会費納入者芳名

第38回卒

大屋　崇・滝沢　巌・春日佐知子・佐々木正紀・島村　誠・茂木典夫・山口幸保・横山弘光・青柳由美・秋山恵美子・須田みな子・生形敏幸・柿沢篤・鳥羽正幸・森　智一・新井智恵・氏岡緑里・荻原路恵・松本賢一・青木しのぶ・小林伊美子・高月美砂子・高橋久美・真島千寿子・山下美幸・折茂勝彦・嶋村頼弘・中島栄一・松井　登・原沢苗美・柳敦子・浅見　暁・浅見幸治・大塚　学・上林一根・桜沢享・根岸幸司・好田健一・大屋秀美・笠原美喜・鈴木亜紀子・杉本公明・須永秀人・三ッ橋晃・新井真美・岡田真佐代・榊田八千代・須藤和枝・高田淳子・大木　充・桜沢　好・関根　賢・矢島史章・山口仁士・武井優子・中島久美子・河西伸彦・山田寛之・渡辺孝和・坂野恵美子・定方真理・塩原貴子・島田良子

謹告

すでに終身会費を納入いただいた方でも昭和四十四年卒以後の方々に「郵便振替用紙」が同封されますので払込まないようお願い申し上げます。

本部役員

会　長　岡　祐孝
副会長　立川大作、竹並栄一郎、橋爪茂夫、関口一郎、吉田建治、高木敏子、竹内清四郎
(教頭)岩田　淳、荻原甚三郎
会　計　戸谷全克、江原清吉
監　事　斉藤淑人、内野ヨシェ
顧　問　塩原英雄、持田直次
(校長)高山　晃

具体的事業

一、母校関係

①沿　革
(1)終戦直後の職員住宅の建設
(2)記念事業への協力
1　30周年…図書館、プール、体育館(現在の格技室)
2　40周年…理科棟
3　50周年…合宿所
4　60周年…クラブ棟
②年間の通常事業
1　入学式・卒業式への出席
2　野球等クラブ活動への応援
3　柏樹祭への出席
4　中高連絡会の開催
5　会報の配布
6　育英資金の給付
7　図書・新聞・進路指導への助成金の支給

二、会員関係

①会員名簿の発刊(約10年毎)
②会報の発行(年2回)
③定期総会の開催
④年賀状発送
⑤支部長会議の開催
⑥新年会の開催

三、新入会員関係

①新入会式の開催
②卒業記念品の贈呈
③幹事の委嘱と幹事との懇談会の開催
④会報の贈呈(卒業後2年間)
⑤総会案内の発送

印刷・協立印刷株式会社